



くつろぎたいは



倉敷中央病院・松岡 孝 先生



佐藤 利昭 糖尿病・内分泌内科部長



すこやか会役員のみなさま



すこやか会会員のみなさまによる作品展

栄養課特製の祝い膳

松江赤十字病院糖尿病友の会「すこやか会」が 50周年を迎えました！

糖尿病・内分泌内科 部長 佐藤 利昭

今年すこやか会は創立50周年を迎えました。これまでの50年間で支えてこられた多くの方々のご苦労に思いを馳せ、今後とも素晴らしい伝統を次世代に繋いでいくことの責任の重さを痛感しております。

すこやか会は、当初患者さんとその家族の会としてスタートしましたが、その後は、公益法人である日本糖尿病協会（日糖協）の協力団体としての島根県糖尿病協会（島糖県協会）の分会として、医療スタッフや健康に関心のある一般の方も含めて参加できる会となっています。

すこやか会の前身である水曜会は昭和43年に横山昇先生の尽力で発足します。昭和59年に着任された武田倬先生の指導の下、会員数も飛躍的に増加しました。私は平成13年からの18年間で、島糖県協会の指導医として、会の運営のお手伝いをさせていただいてきました。

当院には、島糖県協会の事務局が置かれており、すこやか会は、島根県における日糖協活動（普及啓発・療養支援）の要となる友の会であり、島糖県協会を牽引し、日糖協活動を発展させていくという重要な役割を担ってきました。

5月12日に当院の講堂で、創立50周年記念のつどいを開催しま

した。記念式典、講演会、記念パーティのほか会員さんの趣味の作品展や50周年記念誌の頒布も行いました。

会場には絵画や写真、ピース作品や陶芸品、畳一畳分ほどの大きなタペストリーなどプロ顔負けの作品がずらりと並び、まるで美術館のようです。会員さんが病氣と向き合いながら心豊かに過ごしておられる様子が伝わってきて、あたたかな気持ちになりました。

時間をかけて編集した記念誌には日々の療養の様子や会の行事に参加した思い出など多くの原稿が寄せられました。中には日頃なかなか口に出せない家族への感謝の気持ちを綴っておられる方もあり、思いが溢れる大切な記念誌となりました。

講演会では倉敷中央病院の松岡孝先生が「合併症を予防して一病息災〜すこやかな人生を送るために〜」というテーマでご講演くださいました。また、昼食には当院の調理師、管理栄養士が縁起物や旬の食材を使って祝い膳を用意してくれました。手の込んだ料理はまさに芸術品。見た目も味も抜群で、豪華な料理にあちらこちらで感嘆の声が上っていました。

Clinical Department

診療科紹介

膠原病・ 腎臓内科

膠原病・腎臓内科は平成21年7月1日に診療科として独立し、26年4月から島根大学腎臓内科から2人の先生が加わり、3人体制で月々金曜日の外来と毎日の入院診療を担当しています。

膠原病は自己の成分に対して異常な免疫反応が生じ、自己抗体などにより全身の臓器の結合組織に炎症が起こる疾患の総称で自己免疫疾患とも呼ばれます。また関節炎が高率にみられ、最も患者数が多い疾患が関節リウマチであることからリウマチ性疾患とも呼ばれます。炎症を鎮静化するにはステロイドを主体とする免疫抑制治療が有効ですが、肺と腎臓の障害の

程度が予後に大きく影響します。腎臓内科で診る代表的な腎臓病は腎炎・ネフローゼですが、これらの発症、進行には免疫反応が深く関わっています。発症早期や再燃時には膠原病と同様に免疫を抑制する治療を行います。また本院では腎移植の手術は行っておりませんが、腎移植を受けられた患者では拒絶反応を抑えるために免疫抑制薬を続けます。腎臓の症状のない膠原病、免疫抑制療法を必要としない腎臓病もたくさんあります

が、1つの科で両方を垣根なく診ることができるところには大変多くのメリットがあり、当科の強みだと思っております。

医学が進歩し、さまざまな分野で次々と新薬が開発され、診断基準、分類基準、診療ガイドラインが改訂されています。医師の専門的な知識や経験が必要であることはもちろんですが、診療はいろいろな専門科の協力、医師以外の看護師、薬剤師、栄養士、リハビリの療法士などの医療スタッフの参加なしでは成り立ちません。また膠原病、腎臓病とも慢性の経過となることが多く、治療の継続、合併症への対応、日頃の生活習慣の

指導においてはかかりつけの先生方に協力していただくことも重要です。

当科はこの地域の最後の砦と目負しており、総合病院の診療科として病院の機能をフル活用し、地域の先生方と密に医療連携しています。治療が必要な患者の診療は当たり前ですが、健診の二次検査やちょっとした症状での受診もお受けしていますので気軽にご相談ください。



松江市内の
病院で初の試み



長期療養者の 就職支援相談を開始

医療社会事業課 上田 崇平

ハローワークと松江赤十字病院が連携し、がん患者さんをはじめ、肝炎、糖尿病などの疾患により長期にわたる治療を受けながら再就職を希望される方への就職支援相談が始まりました。入院、通院されている方が、病院内で職業相談や職業紹介を受けられるようにハローワークの専門相談員（就職支援ナビゲーター）が病院に出向き、がん相談員をはじめとする病院スタッフと連携して相談に応じます。

5月27日には、出雲公共職業安定所山田誠所長と当院の大居院長による協定書を取り交わす調印式を行いました。県内では3カ所目、松江市内の病院では初の協定の締結となりました。当院では初回の相談会を6月18日から始めています。

長期療養により離職、転職を余儀なくされた患者さんに対し、安心して再就職、転職できるよう、少しでも患者さんに寄り添い、支援できればと思っています。

是非この機会にご利用、ご相談ください。是非この機会にご利用、ご相談ください。是非この機会にご利用、ご相談ください。



Clinical Department
診療科紹介
乳腺外科

乳腺外科は、乳腺に係わる様々な疾患を扱っていますが、乳がんに対する診療が中心です。
乳がんの診療内容は手術だけでなく、診断、薬物療法、放射線治療、リハビリ、緩和医療など多岐にわたります。乳腺外科には、現在5名の医師（うち乳癌学会指導医2名、認定医1名、臨床遺伝専門医1名）が所属しています。「患者さん一人一人に最善の乳腺診療を提供する」ために、院内のたくさん部署の医師、多職種スタッフの協力を得て、チーム医療を行っています。

と診断された後、告知に伴う精神的ダメージに寄り添えるようにがん専門・認定看護師や外来看護師によるサポートを行っています。患者さんの日々の不安に寄り添うために、外来では随時電話対応をしています。

手術は、根治を目指すと同時に、患者さんの気持ちに配慮するようにしています。乳房に対しては、できるだけ形のよい温存手術を心がけ、乳房切除が必要な方でも条件が許せば形成外科医による同時乳房再建術を提案しています。腋窩リンパ節の切除では術後のリンパ浮腫を避けるため、センチネルリンパ節生検を積極的にに行っています。術後にはリハビリスタッフによるリンパ浮腫の予防・治療を行います。乳房を温存後の放射線治療では、放射線治療医の協力を得て、従来より短い日数での治療も可能となりました。

薬物療法（抗がん剤、ホルモン剤分子標的薬）の進歩は著しく、日々新しい情報を精力的に取り入れ、薬剤師の協力を得ながら、安全で患者さんに合った治療を心がけています。化学療法による有害事象対策に関しては外来化学療法センター・病棟看護師らと共に手足のしびれに対する圧迫療法、脱毛に対する頭部冷却などの対策をしています。高額な手術・薬物療法に

伴う医療費に関してはソーシャルワーカーが説明をし、治療が続けられるようにサポートしています。乳がんの5〜10%は遺伝性であることから、遺伝性乳がん卵巣がん症候群を中心として、臨床遺伝専門医による遺伝力カウンセリングや遺伝学的検査も行っています。
乳がんは早期治療、早期発見により比較的治りやすい疾患です。診療所内科医と病診連携をすることで生活習慣病への対応もしています。皆様のご支持により近年、山陰地方で最多の手術件数を維持しています。患者さんに満足していただける診療をこれからも追いかけていきたいと思えます。



Hello Doctor

5~7月採用医師紹介

小児科

羽根田 泰宏

島根県出雲市出身です。小児アレルギー専門ですが、まだまだ勉強中で興味は尽きません。微力ながら松江の小児医療の充実に力を尽くしたいと思えます。

麻酔科

内村 えりか

島根大学から参りました内村と申します。笑顔をお忘れず頑張りたいと思えます。よろしくお願ひします。

▼調印式の様子



▲当院のがん相談員とハローワークの就職支援ナビゲーターが相談に応じます。

【開設日】 毎月第3火曜日 10時~12時（予約制）
【申 込】 患者総合支援センター（電話0852-32-6901）

第64回すずらん贈呈式

すずらんコンサート



全日空などのANAグループから今年もスズランを寄贈していただきました。患者さんを励まそうと社会貢献活動の一環として、全国51の赤十字施設に贈られています。当院には、鉢植え6鉢、切り花50束、香り付きの特製しおり600枚をいただきました。

5月後半の北海道の猛暑（道内東部39.5度を観測）により、生花が届くのだろうか心配していましたが、今

年も道内西部千歳市近郊で咲いた花を全国に無事にお届けできたとのことです。

客室乗務員らから入院患者代表と村田副院長に、「再び幸せが訪れる」の花言葉があるスズランの鉢植えが贈られました。患者代表の方は、報道3社の取材と写真対応にびっくりされていましたが、「良い経験だった」と言っておられました。

また、入院患者さんやイベントに集まれた方々には、切り花・しおりをお届けしました。

初夏を感じる行事として、コンサートを同時開催しています。第5回目になりますジョイフル♪ジョイフル「すずらんコンサート」は、今年も選曲に工夫してもらいました。スズランをイメージできる曲がないと言っておられましたが、初夏、空、北海道を感じてもらう選曲をされていました。透き通った歌声と、心地よいアコーディオンとキーボードの音色がお届けできたと思います。



病院まつり開催のご案内

松江赤十字病院 第6回病院まつり

開催日時：令和元年9月14日（土）10：00～15：00

9月14日（土）に「第6回 病院まつり」を開催します。これは普段病院を利用されたことのない方にも当院の医療を知ってもらおうと、新病院完成を機に毎年開催しているイベントです。

毎年大好評の手術室見学ツアーや医師体験、ヘリポート見学はもちろんのこと、各種健康チェックコーナーや記念撮影コーナーなど、皆さんにご満足いただける企画が盛りだくさん。

公開空地のメインイベントは、昨年大好評だった「松江だんだんプロレス」に加え、「よさこい連 國美輝」の皆さんにお越しいただき、会場を大いに盛り上げていただきます。

昨年は過去最高の約1000名の方にご来場いただきました。今年も多くのご来場をお待ちしています。



■病院理念……わたしたちは、「人道・博愛」の赤十字精神に基づき地域の医療に貢献します。

■基本方針……

- ① 地域の基幹病院として、説明と同意に基づく「高度」「良質」な医療を提供します。
- ② 急性期病院として保健・医療・福祉・介護機関との連携を進め、一貫した医療を行います。
- ③ 救急病院として24時間地域の健康を守ります。
- ④ 赤十字病院として災害救護に貢献します。
- ⑤ 教育病院として次世代の医療人を育てます。

松江赤十字病院『患者さまの権利』

1. ひとりの人間として人格と価値観を尊重される権利があります。
2. 医療提供者との相互協力のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 検査・治療法などの自分が受ける医療の内容について、わかりやすい言葉や方法で説明を受ける権利があります。

4. 説明を十分理解し同意した上で、医療行為を受けるかどうか自分の意志で選択する権利があります。
5. 医療行為の選択にあたって、他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳正に保護され、承諾なしには開示されない権利があります。
7. 自分が受けている医療内容を知るために、診療録の開示を求める権利があります。

私たちが、上に掲げた患者さまの権利を尊重した医療を提供するために、患者さまには次のことをお願いいたします。

- ① 自分の健康に関する正しい情報の提供
- ② 医療への積極的な参加
- ③ 病院の規則を守ること
- ④ 研修医、医学生、看護学生などの研修・実習・見学への理解と協力